

【藤田地区】

地域農業の将来（地域計画の策定）に
関するアンケート調査の結果について

調査概要

【藤田地区】

調査の目的

農業者の高齢化、担い手不足、耕作放棄地の増加が深刻化しており、今後の農業の展望を描くのが困難となりつつあります。

このような中で、農業者や所有者が地域の現状と将来の地域課題を共有することや、今後の農地利用を担う経営体への農地集約化に関する将来方針決定のための意向把握することを目的に実施いたしました。

調査期間

令和4年7月6日～令和4年7月31日

令和5年4月10日～令和5年4月28日

調査方法

郵送及びJ A 紀州にて配布・回収

調査対象者

御坊市で営農を行う耕作者

御坊市に農地を所有する土地所有者

回収状況

対象者数 132名

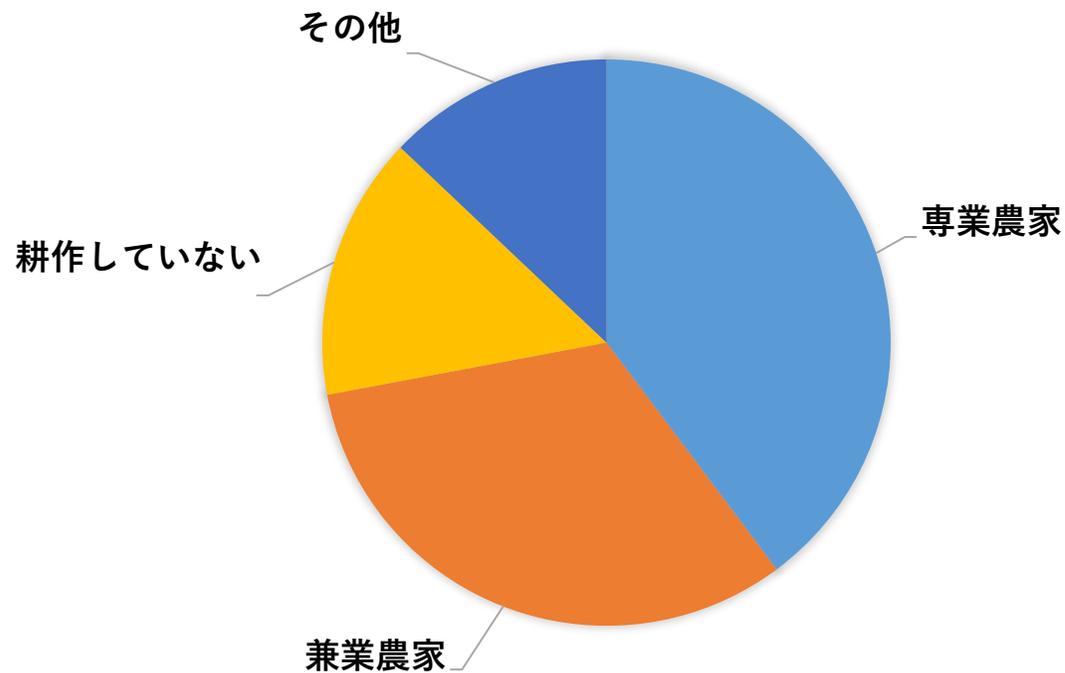
回答者数 93名 回答率 70.45%

◎注意事項

① 割合は全て百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。そのため、百分率の合計が100パーセントにならないことがあります。

経営の種類

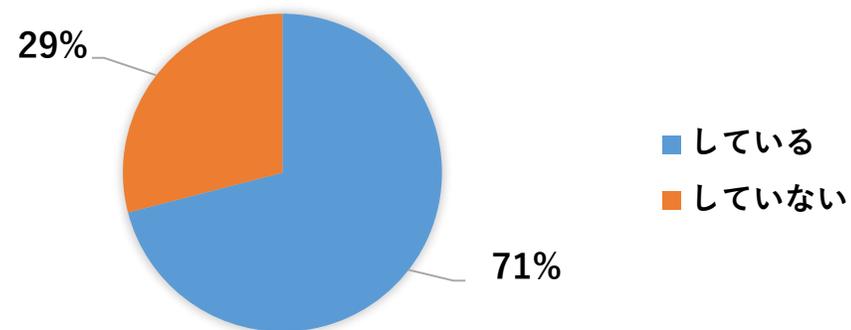
【藤田地区】



回答者の約71%が農業経営を行っており、専業農家が約40%を占める。

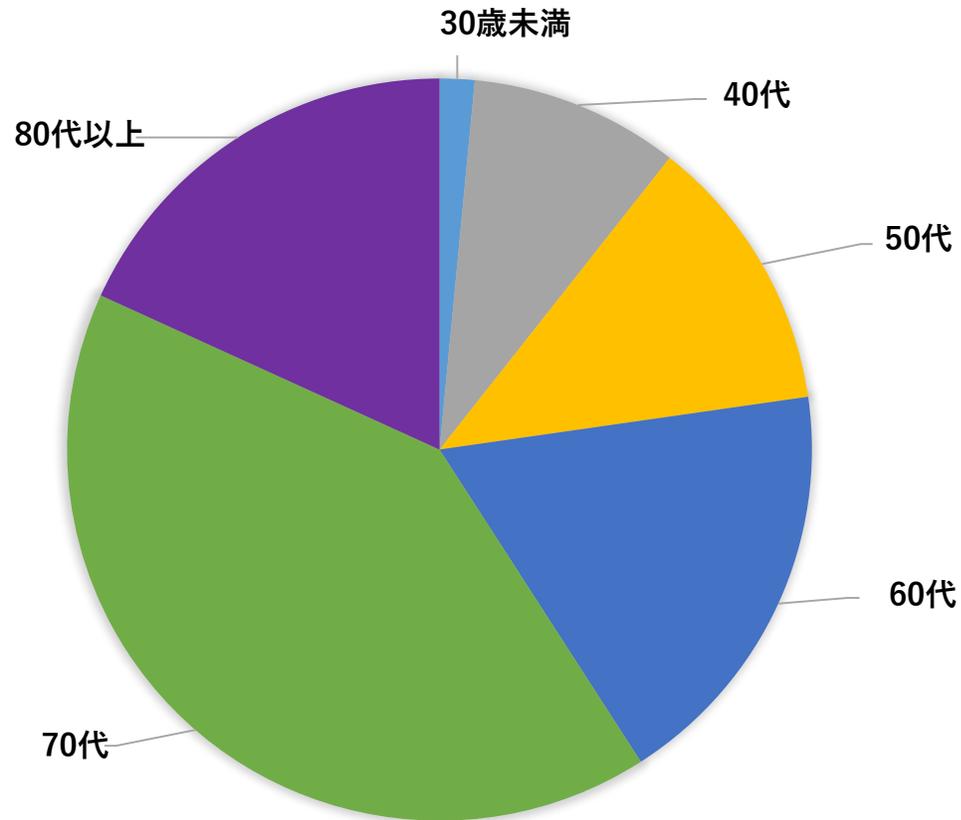
項目	回答数	割合
専業農家	37	39.78%
兼業農家	30	32.26%
法人	0	0.00%
耕作していない	14	15.05%
その他	12	12.90%
合計	93	

回答者における農業経営の割合



営農している方の年齢割合

【藤田地区】



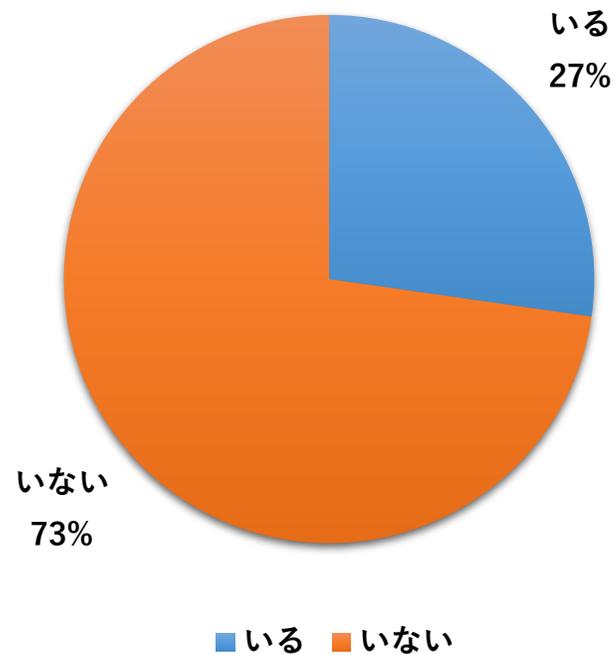
項目	回答数	割合
30代未満	1	1.52%
30代	0	0.00%
40代	6	9.09%
50代	8	12.12%
60代	12	18.18%
70代	27	40.91%
80代以上	12	18.18%
法人	0	0.00%
合計	66	

主に本人が耕作している場合の年齢層は、60、70歳代が全体の約6割を占める。後継者に継承しない場合、10年後には70歳以上に移行していくこととなる。

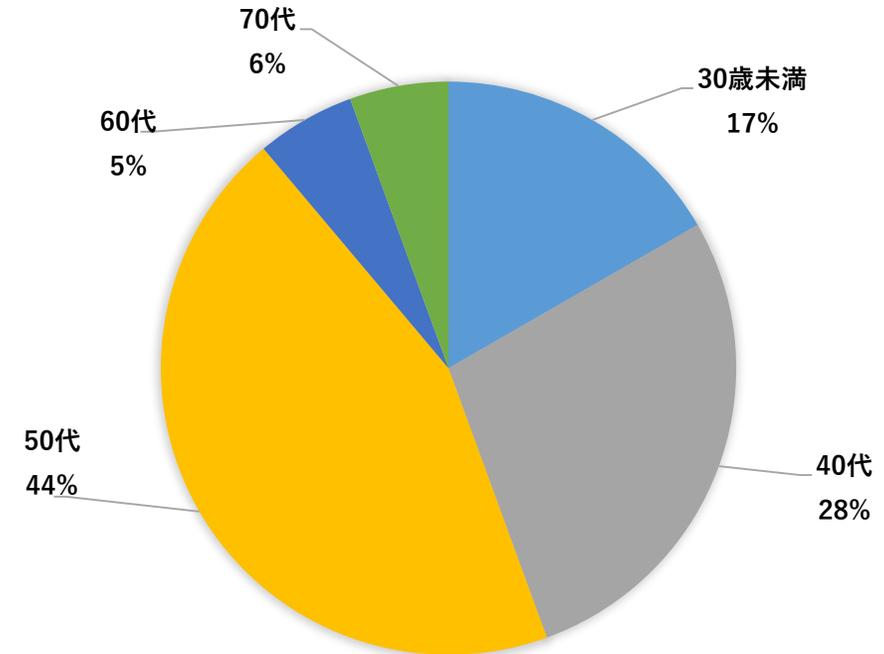
後継者について

【藤田地区】

農業後継者がいるものの割合



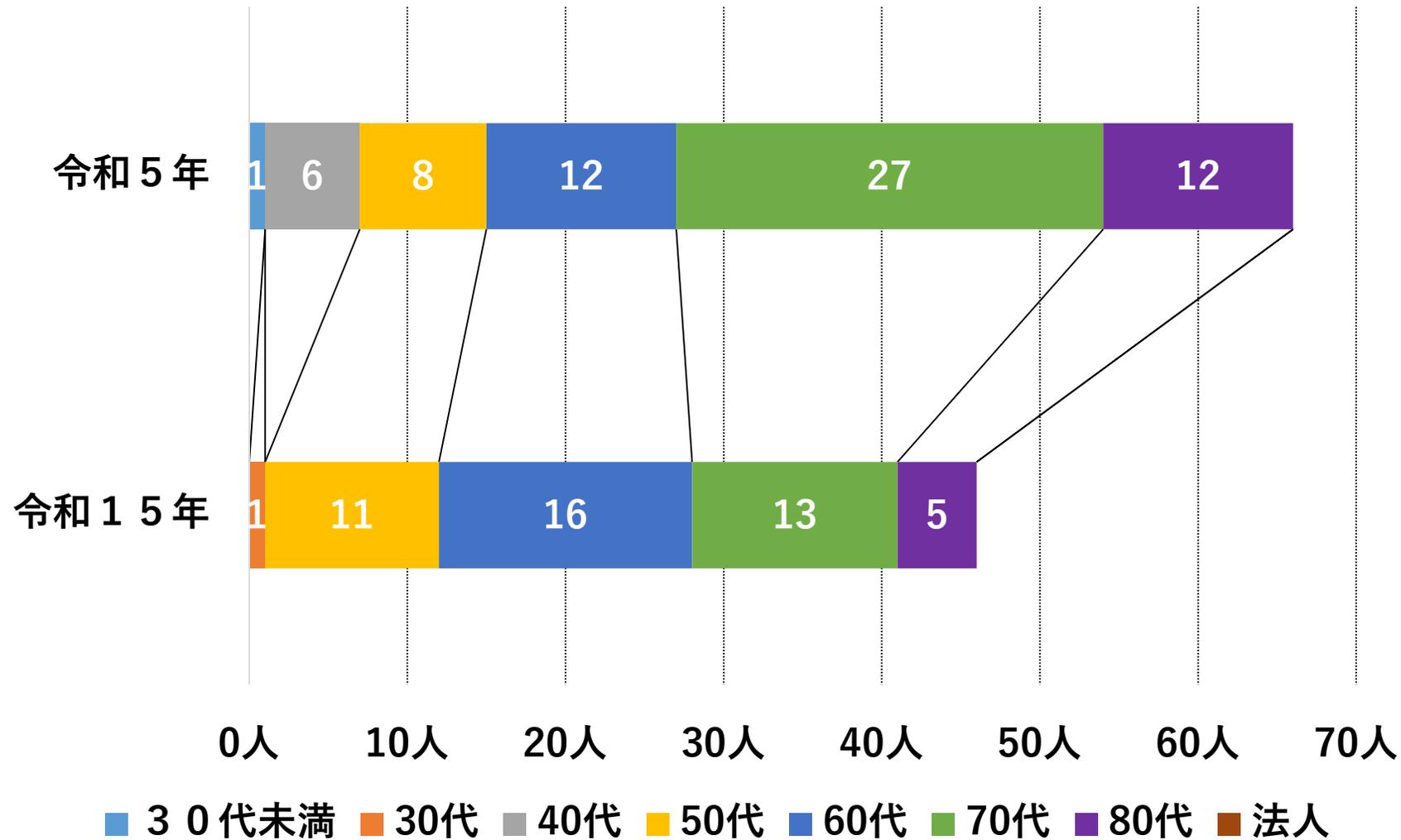
後継者の年齢



農業後継者がいるものの割合は27%にすぎず、担い手不足は加速すると思われる。

現在と10年後の耕作者の状況

【藤田地区】



現在耕作者の年齢分布は70歳代中心で10年後には離農者が増えることにより農業経営人数は66人から46人となり20人減少することとなる。

地域農業の在り方に関するご意見（抜粋）

【藤田地区】

- 高齢化、米価の安さ、資材高騰等々で離農、縮小する方が増えています。受け手となる農家も限界のようです。10年先の農地の荒廃を心配しています。
- そもそも、しんどい、金かかる、儲からないが原因だと思うので集落営農化を進める等を考えなければならないのか？と思う。消費税を納めなければならない程度に収入がないと後継者は減る一方なのでは？
- 後継者の不在農家が多く10年後では営農してない土地が増加。未農地をまとめ、これらの土地をまとめて営農してくれるグループを作っては。グループは興味のある人を集め、会社組織のようでもよい。等